

『教育週報』教員処分関係記事見出し一覧及び解題（二）

— 1929～31年 —

住 友 剛

1. 解題（1929～31年）

（1）はじめに

（2）対象期の教員処分関係記事の特色について

（3）記事整理方法についての変更等について

2. 『教育週報』教員処分関係記事見出し一覧（2）：1929～31年

1. 解題（1929～31年）

（1）はじめに

本稿は、『関西大学教育科学セミナー第28号』（1996年12月）に掲載された『『教育週報』教員処分関係記事見出し一覧及び解題（一）1925～28年』（以後「前稿」と略す）に続く第二稿であり、1929～31年の3年間の週刊教育新聞『教育週報』（以後『週報』と略す）における「教員処分」（以後カッコは省略）関係記事の見出し一覧を作成し、対象期の関係記事についての若干の解題を付したものである。

なお、最初に本稿の位置づけについて、3点ほど断っておきたいことがある。

まず第一に、本稿は前稿同様、教員処分に関する共同研究グループ（主宰・岡村達雄）の基礎的な作業の一部を構成していることをあらためてお断りしておく。

第二に、一覧の作成にあたっては、前稿同様、1986年に大空社より刊行された復刻版（中野光監修）を用いている。その他、この『週報』がいかなる教育新聞であったのか、および本研究

における教員処分の概念、記事整理の方法等については、前稿を参照していただくことにして、ここでは詳しい説明を省略した。

第三に、本稿においては、前稿の最後で述べた便宜的な時期区分のうち、「第2期・1929～35年」の全体を通した一覧を掲載すべきであるが、紙幅の関係上、その前半部分に相当する部分しか掲載することができなかった。当然、次の掲載時には、残り4年分を引続き掲載することになるが、これも紙幅の都合により時期区分を若干修正するなどの対応を取る場合も有り得ることをお断りしておきたい。

（2）対象期の教員処分関係記事の特色について

さて、周知のとおり、本稿が対象とした1929～31年は、ニューヨーク株式市場の暴落を契機とするいわゆる「世界恐慌」の波が日本にも押し寄せるとともに、当時の金解禁に伴う「昭和恐慌」と相まって、農村地域を中心に深刻な経済危機を迎えた時期である⁽¹⁾。また、1931年

9月には「満州事変」が勃発し、その後1945年まで続くいわゆる「十五年戦争」が始まった時期でもある。

なお、この時期から以降の教員生活や教員運動の諸問題については、これまでの教育学研究においてもさまざまな先行研究が存在する⁽²⁾とともに、当時の教員や教育運動に関与した人々の記録などが出版されている⁽³⁾。

この時期の教員処分の構造については、前稿同様、詳細は今後の共同研究の進展に伴って明かにされるため議論は行わない。ただ、教員処分関係記事の特色については、ここで簡単に6点に要点をまとめて述べておこう。

第一に、この時期の『週報』においても、恐慌に直面した各市町村の教育財政の逼迫に伴う教員給与の減額、不払、寄附強要や、小学校教員の人員整理等に関する記事が、1930年を中心に紙面の多くの部分を占めている。『週報』では当時、具体的な市町村レベルにまで立ち入って各地の減俸や人員整理についての報道が行われたのであるが、このような記事については、一覧の分類Ⅱ「2. 教員の給与関係」および「4. 教員の需給関係」にまとめている。

第二に、このような人員整理や給与不払などの小学校教員の生活不安問題に対して、帝国教育会や全国連合小学校教員会⁽⁴⁾などを中心に、減俸・減首反対や教育費国庫負担の増額など、教員の生活防衛のためのさまざまな運動も展開していた。また、教員の生活を守るための教員組合結成を求めた議論も、さまざまな形で展開している。この全国連合小学校教員会等の運動については、分類Ⅲ「2. その他教員運動関係」の「(1) 教員の減俸・減首等反対運動関係」にまとめ、教員組合や教員の労働者性についてのさまざまな議論は同じく分類Ⅲ-2の「(2) その他」にまとめた。

第三に、『週報』は「有って無きが如き文部内務省の尻に敷かれ馬鹿げた整理案」(1931

年9月6日)など、文部省が地方行政を担当する内務省の意向に押されて教員整理案を立案していることへの批判的な記事を掲載している。このような記事は分類ⅡまたはⅢに散在するが、当時の文部省と内務省の関係がこのような記事から伺える。

第四、当時の教員への具体的な処分についていえば、1930年初めには小学校教員連盟関係者の検挙等、いわゆる「赤化教員」への弾圧が開始されている。この事件に関しても、分類Ⅰ「1. 具体的教員処分—裁判事例」に見られるように、免職された教員の行政訴訟の動きや不当解雇真相演説会の模様を報じるなど、『週報』はさまざまな形で取りあげている。ただ、分類Ⅰや分類Ⅲ「3. 教員の思想対策関係」などに分類した『週報』の記事を見る限りでは、「赤化教員」の取締りに積極的に動いたのは、警視庁よりも文部省や東京府の学務当局であったことがわかる。

この他、教員の体罰や生徒の事故死に伴う処分、内申書不正や教科書疑獄に関係する処分、校長排斥や学校騒動に伴う処分、強盗や窃盗など教員の刑法犯罪等、赤化教員の事件以外にもその他さまざまな教員処分がこの時期に行われたことも、『週報』の記事から伺える。

第五の特色としては、この時期の『週報』では、大正期以来のいわゆる「新教育運動」のその後の状況を追跡取材した記事⁽⁵⁾や、その「新教育」に関係した人々の教員処分体験を綴った記事なども見られる。このうち、後者の記事については、教員処分に具体的に言及したものを分類Ⅰ「5. 処分後の学校・運動等の状況がわかる事例」にまとめた。このような記事からは、手塚岸衛や下中弥三郎などの当時の教育界の著名人が、かつて学校騒動や校長の排斥にさまざまな形で関与していたことがわかる。

最後の六点目としては、Ⅲ-2(3)に分類したように、数は少ないものの、教員の減俸問

題や人員整理の問題などに関連して、『週報』には「教育界の沈滞打破」や「教育刷新」を求めた個人の意見記事が掲載されている。ここからは当時の教育関係者自身の教員観や、当時の教育界に対する状況認識が伺える。

この他にも教員の政治活動や恩給・年功加俸に関する記事、女子教員の生活問題など、さまざまな教員処分に関する記事が掲載されているが、詳しくは別掲の一覧を参照してほしい。

（３）記事整理方法についての変更等について

本稿の最後に添付した「『教育週報』教員処分関係記事見出し一覧（２）」では、基本的に前稿と同じ記事の整理方法を用いている。したがって、分類の項目などについては大きな変更はない。

ただ、紙幅の関係上、本稿では次の３点において整理方法を変更している。

第一に、ある特定の教員処分事件に関して連続して記事が掲載された場合や、教員の給与関係や需給関係など数多くの記事が存在する項目の場合には、従来のローマ数字で分けた大項目、算用数字で分けた小項目のあとに、カッコ書きでさらに該当事件や分類項目毎に番号を割り振って記事を整理した。

第二に、前稿では分類Ⅱ・Ⅲに属する記事名でも各記事毎に野線を引いていたが、それは紙幅の関係上、本稿からは行わないことにしたほか、分類ⅠやⅢの一部記事を除き、記事内容に関する記述は省略することにした。

第三に、本稿においては、分類Ⅰにおける具体的な処分内容（進退伺の提出も含む）やその理由、処分者数、教員に関する裁判の量刑・判決内容などについては、アンダーラインを引くことにした。

以上が前稿よりの記事整理方法の変更点である。記事見出し一覧の作成については前稿同様、

遺漏のないように心がけたが、不備などがあればご指摘いただきたい。

<註>

（１）山本弘文・寺谷武昭・奈倉文二著『近代日本経済史 資本主義の成立・発展・崩壊』有斐閣新書，1980年，p. 149。

（２）数多い先行研究が存在するが、その一例をあげると次のようなものがある。

井野川潔・森谷清・柿沼肇編『嵐の中の教育 1930年代の教育運動』（新日本出版社，1971年）

増淵穰・教育運動史研究会編『日本教育労働運動小史』（新樹出版，1972年）

岡本洋三『教育労働運動史論』（新樹出版，1973年）

尾崎ムゲン「共産主義と教育運動ー 新興教育研究所の活動を中心にー」，渡部徹編『1930年代日本共産主義運動史論』（三一書房，1981年，第5章）

（３）これについても数多くの文献が存在するが、その一例をあげると次のようなものがある。

池田種生・教育運動史研究会編『プロレタリア教育の足跡』（新樹出版，1972年）

山口近治・教育運動史研究会編『治安維持法下の教育労働運動』（新樹出版，1977年）

なお、（２）の増淵穰，上記の山口近治は、分類Ⅰの記事見出し一覧にもあるとおり小学校教員連盟事件で犠牲された教員であり、池田種生はこの時期『週報』の記者であった。

（４）この全国連合小学校教員会の結成から解体に到るまでの運動については、次の論文が詳しい。太郎良信「全国連合小学校教員会研究序説」鈴木博雄編著『日本教育史研究』，第一法規出版，1993年，p. 386～413。

（５）『週報』においては、1930年12月6日の第290号から翌年10月10日の第334号まで、「新教育よ何処へ行く」と題する連載が行われた。

『教育週報』 教員処分関係記事見出し一覧（２）

- 1929～31年 -

- 備考 1. 見出し中の漢字については、いくつか現在用いられている漢字に修正している。
 2. 見出し中の人名については、できる限り職名（～学校長）や仮名（S、I など）に置き換えた。
 また、記事文中で仮名となっていたものについては、その仮名のまま掲載した。
 なお、一部見出し中に実名が登場している記事、およびこれまでの教育学研究上で著名な人物の名前が登場している記事については、そのまま掲載している。
 3. その他、「支那」など、今日では使用するのに不適切な用語であっても、当時の記述を正確に表記するため、見出しに用いられているものはそのまま掲載し、内容説明や備考等においては修正した。
 4. 記事見出し一覧中の斜線は、「大見出し／小見出し」という関係であることを示す。
 5. 記事見出し一覧の作成については遺漏のないよう努力したが、不備などあればご指摘いただきたい。

I. 「教員処分」及び教員の不祥事に関する記事

1. 具体的教員処分・裁判事例（教員の関係した裁判も含む）

（１）徳島市での訓導のピストル強盗事件

日 付	記 事 見 出 し 名	記 事 内 容	備 考
1929. 01. 26 (S04)	昼は教壇 訓導強盗 徳島県田宮校で	徳島県新居村の小学校訓導Mがピストル強盗により逮捕される。	
1929. 02. 02 (S04)	模範訓導が強盗になるまで 恋に捨てられ、身は薄給 昼は教壇、夜はピストルを握って	既報の徳島県での訓導のピストル強盗事件の後報。校長が辞職願を、県学務課長・視学官等が進退伺提出。Mは薄給のための失恋から犯行に至ったと説明。	
1929. 06. 29 (S04)	失恋からの訓導強盗 法廷で告白 徳島市の前訓導	前掲のピストル強盗になった元訓導の大阪控訴院での公判の模様。	

（２）小学校教員連盟事件

1930. 03. 01 (S05)	手入れされた小学校教員連盟事件 社会科学研究的程度だ……と上田特高課長談	前年末、東京府小学校教員を中心とした関東教員連盟を共産主義団体と見て、その幹部5名を検挙し退職を命じた事件があった。ただ、特高課長は、「前途ある青年であることだし事件そのものは大したことはない、一度調査しただけで（捜査は）打ち切り」という主旨で発言。	文部省や府学務当局の衝撃の方が大きい様子
1930. 03. 22 (S05)	「左傾」教員誡首を府市当局に抗議 教育記者新人会の行動	上記事件に関し池田種生、上田庄三郎らが今後左傾教員の誡首を行わないよう東京府市の学務当局に抗議。	
1930. 04. 12 (S05)	教育者よ、起て！ 各講演者団結の必要を叫ぶ 教育記者新人会主催の教育批判講演会	この講演会において下中弥三郎らと一緒に、被処分者の一人が教員を政治的社会的に拘束する種々の法律の撤廃および教育者の解放を叫ぶ講演を行った。	為藤五郎も講演。
1930. 04. 26 (S05)	不当の教員誡首に行政訴訟を起す 小学校連盟を組織した東京府下の教員が	この事件に関し退職を強要された者は11名にのぼるが、そのうちの山口近治、町田知雄、増淵穰の3名がその退職を承諾せず、布施辰治弁護士に依頼して、不当解雇に対する行政裁判および本月分の俸給請求の民事訴訟を起す準備を始めた。	春季特別号
1930. 05. 03 (S05)	不当解雇真相演説会 八王子市で（東京府下版）	見出しの講演会が開催され、増淵穰などが不当解雇の真相を訴えた。	
1930. 05. 10 (S05)	びくつくな！ XY生	上記の演説会への教員の参加に際し視学等から干渉があったことや、小学校令施行規則127条による誡首は文部大臣の「認可」を必要とするなど手続が難しいのだからそれを教員は恐れることはない、などが記事の内容。	

日 付	記 事 見 出 し 名	記 事 内 容	備 考
1931. 09. 12 (S06)	所謂「赤化教員」の取扱が厳しいと 警視庁から学務部に警告 学務当局 盛に弁解	東京府の赤化教員検挙に関し、温情主義をとる警視庁から府学務部に免職等を避けるように注意があったにもかかわらず、府学務部は校長を通じ退職させていた。この点について警察側から府学務部へ警告があったが、学務部側は「そんなことを言うなら思想取締などと言わぬがよい」などと反発している。	検挙者は 結局約40 名、退職 者11名と のこと。

(3) その他の事例

1929. 01. 12 (S04)	免許状偽造書記の公判 十一日鹿児島で	前年発覚した鹿児島県学務課・T書記の免許状偽造事件の公判日が確定。	
1929. 03. 30 (S04)	捨てられた女相手の教員を告訴 広島県市場町	同町の小学校教員S。別れた内縁の妻がSに対して1万円の慰謝料請求の訴えを徳島地裁に起したが、女性側が敗訴。今度は大阪控訴院に不服申立てを行い、控訴院は原審破棄・審理やり直しを命じた。	
1930. 04. 12 (S05)	昭和の教科書疑獄 福岡県教育界の不祥事	福岡県立修猷館中学校の教頭S、筑紫中学校教頭のIが教科書購入に際し福岡市内の書店3軒から収賄を行っていたことが発覚、起訴収容される。	法規上起訴と同時に休職。
1930. 09. 27 (S05)	教育界秘話(三)「体罰事件」賛否に寺内、沢柳、岡田氏	東京市江東小学校のS訓導の体罰事件に関し、東京地裁はこの事件に対し刑法上は傷害罪を適用し、民事裁判上は15円の損害賠償を命じた。しかし、峰間信吉が奔走して控訴し、二審では刑事については無罪となった。	岡田良平文相期、二審は横浜か？
1930. 11. 29 (S05)	愛から残忍へ 女生徒を孕まし自殺させた教師 懲役六年の言渡 奈良県の小学校訓導	奈良県下の元小学校首席訓導Wが卒業後も個人的に関係を持っていた元の教え子を妊娠させたことから、その教え子に自殺をそそのかし遂に死なせた事件。この事件に対し、大阪控訴院は懲役6年の判決を言渡す。	
	証人の教師科料取消 多忙な小学教師出頭の義務なし	東京府下大森小学校訓導のT氏。東京地裁での民事訴訟の証人として出頭することを求められたが応じなかったため、一度科料30円に処せられた。しかし、東京控訴院へ抗告、「学期末の多忙な小学校教師は証人として出頭の義務なし」となり、科料は取り消された。	
1931. 03. 07 (S06)	女生徒校長を訴ふ 岩佐女学校生	東京府下の第二岩佐女学校の生徒が校長を相手に、債務不履行並びに不法行為による2,200円の損害賠償請求訴訟を提起。提起の理由は病気による休学が認められず体操の授業が強いられたこと、寄宿舎における虐待など。	

2. 具体的教員処分事例

(1) 東京市・本所日進小学校の生徒墜死事件

1931. 02. 07 (S06)	教へ子の奇禍悩む女教師 本所日進小学校 (東京府市版)	同校高等科1年生の女子生徒が清掃中に二階の窓から墜落死。校長、首席訓導、担任の出町訓導が市当局に進退伺を提出。	
1931. 05. 02 (S06)	時事問答 教員の過失と刑法 東京高師附属小学主事 佐々木秀一	上記の事件に関し担任訓導に業務上過失致死罪が適用されるかという議論があるが、こういう教育上の手段の遂行から起った不慮の事故に業務上過失致死を適用するような態度は、教師にとって無慈悲である、など。	

日 付	記 事 見 出 し 名	記 事 内 容	備 考
1931.05.02 (S06)	墜死児童の受持訓導 遂に脳神経衰弱／出町訓導は不起訴 当時の事情を酌量して	出町訓導は行政処分の「 <u>誣責</u> 」だけで、刑事責任については当時の状況を考慮して不起訴になった。ただ、出町訓導は事件以来一睡もせず児童の看護にあたり、生徒の死亡後は精神的なショックから学校を休んでいる。	
	児童掃除は不可 但し僕の個人的意見だよ 肥後府視学官談	この事件に関し、同氏は個人的意見として、児童に掃除をさせるということが勤労の習慣を養成するという風なことは大した目的にならないと述べ、経費さえ許せば人を雇って清掃を任せることを主張した。	

(2) その他の事例

1929.01.01 (S04)	高知女師長辞表を提出 生徒の放火に責を引き	校長以外に4人の教諭(舎監)も休職処分となっていたが、休職期間中に復職の見込。	
1929.01.05 (S04)	労農教師三百名免職 支那東三省当局	中国東北部の各ロシア小学校に勤務するソ連国籍の職員等約300名に対し、ハルビン地方の官憲が一斉に <u>退職</u> を命じた。	当時の中国の事例
	校長と教諭喧嘩両成敗 秋田県金足農校	校長排斥問題で紛糾が続いていた金足農学校で、県当局は校長排斥に動いていた5教諭に「行動が教員として不都合」という理由で <u>依願免職</u> を命じた。校長は戒告に。	
1929.02.23 (S04)	自分の増俸具申書を偽造 岡山県で珍しい教員犯罪 校長の印を盗用七十円を八十円に	岡山県久米郡の公民学校教諭Tが校長の公印を盗用し、増俸具申書を偽造。同人は直ちに <u>休職処分</u> になり、今後の処置を検討中。	
1929.03.09 (S04)	今度は強窃盗助教諭 岡崎市の商業学校	岡崎市立商業学校の助教諭Sが十数回にわたり強窃盗を働き警察に検挙されたため、市当局は <u>退職</u> を命じた。	
1929.03.30 (S04)	学務部長が学務課長を殴打 山形県内での暴行	山形県のS学務部長が意見の対立するO学務課長を殴打、 <u>官吏として許すべからざる行為として休職処分</u> 。	官吏の事例、参考
1929.04.06 (S04)	御影隠匿の狂恋女教員 長崎県諫早高女	同校の女教員Sが宿直中に「御真影」を隠匿。Sは <u>恋愛問題</u> のため罷免されることになっていた。	
1929.04.20 (S04)	生活苦から縊死 辞表提出の内命が原因か 八人家族の訓導	山形県袖浦村の小学校教員F。3月末の異動に際し辞表提出を命じられたが、生活苦を悲観し精神に異状を来したので4月に入って他校に転任を命じた後の事件。	
	ゴタついた立正大学漸く解決す	大学だけでなく中学部でも前教頭派・新教頭派に別れての紛争があり、前教頭派の <u>3教員に休職</u> を命じた。	
1929.06.01 (S04)	茨城女子生徒告別式場で騒ぐ 受持教師の転任が原因で	教員間の軋轢のため退職を余儀なくされた国語教諭W氏の離任式に際し、その理由を知った生徒が校長等を詰問し、大騒ぎになった。	
1929.11.09 (S04)	大阪の内申書不正処分は果然、政略の犠牲 内閣に迎合する府知事 帝国教育会特派 相澤 熙氏調査	同年3月の大阪府での中学校入試に関する内申書の不正に対し、内閣交代後に約120名の教員等に対する処分が発表された。内訳は他府県転任1名、引責辞職10名(校長4、教員6)、減俸84名(校長36、教員48)、誣責校長1名、書面・口頭による戒告24名(校長13、教員8)	

日 付	記 事 見 出 し 名	記 事 内 容	備 考
1930. 06. 28 (S05)	左傾教員取調べらる 新潟県で教員組合結成を企て	同県中蒲原郡の小学校訓導Yほか、昭和3年度新潟師範学校卒業生の教員十数名が警察の取調べを受ける。関係教員は約50名ほどあり、 <u>首謀者の免職は免れない。</u>	
1930. 12. 13 (S05)	差別待遇から水平社児童盟休 岡山県厚生小学校 或は全県下に波及か	同校で児童の差別待遇問題に関し盟休が起り、県当局では校長及び担任教諭の更迭を行った。	
1931. 03. 28 (S06)	模擬村会が祟り訓導三名を免職 是非は事実が判らねばと文部当局 新潟県下の小学校で	新潟県東頸城郡の小学校で、「公民教育」の名のもとに模擬村会を開いた教員3名を、「治安警察法違反」として地元警察が取調べ。この3名は退職を命じられ、校長も監督不行届で罰せられた。模擬村会での内親王誕生の賀表奉呈の決議などが「軽々しく皇室に関することを取り扱ったのは不都合」として取調べに至った。	
1931. 07. 04 (S06)	昭和の女高山彦九郎 太田訓導遂に休職 単身首相に面会を求めて狂人扱いにさる	同訓導の休職理由は、某公爵の屋敷が外国人の手に渡るのを敷き、国家の手でそれを食い止めてもらいたいと単身首相官邸に陳情したことから警察に目をつけられたため。なお、同訓導については1927年3月12日付けの『教育週報』でも、別件で一度辞職を求められたことが報じられている。	東京府市版
1931. 09. 19 (S06)	大阪高女問題解決す	S校長の休職（理由不明）以来6月より紛糾していた大阪市立高女生徒の盟休問題は、貴族院議員や市会議長の調停により問題が解決した。	
1931. 10. 31 (S06)	女師 — 主事辞任	東京府立女子師範学校附属小学校のY主事が、 <u>病氣によりその任にたえないため辞任を申し出たが、休職になる見込。</u>	東京府市版

3. 休退職強要の事例

1929. 01. 01 (S04)	名物校長一成田千里氏受難 東京市会の解散を機会にばさり！と首が飛ぶ	東京市長が市立第一中学校長に対し、市の教育方針に添わないという理由で引退勧告。校長が了承したので文部省に休職処分を申請することになった。	
1929. 01. 12 (S04)	東京一中騒動半ば円満解決 前校長外遊、後任は首席、蟹江氏の転任は沙汰止み	既報の東京一中校長の休職問題が解決しそうだとの消息通の話。校長は休職中に外遊、後任には教頭が当分の間校長事務取扱に就任。	
1929. 06. 08 (S04)	石岡農学校生盟休す 校長の圧迫が因	同校の生徒が校風刷新のため生徒を圧迫した校長の排斥を企て、同盟休校を決行。	
1929. 06. 22 (S04)	埼玉女師生校長排斥 過半数盟休	服装関係の校則の問題から、埼玉女子師範学校の生徒が校長に退職要求書を手渡し、盟休に入るかまえを見せている。	
1929. 09. 21 (S04)	新校長が嫌い故に女学校を廃止す 和歌山県池田村会が決議 前例のない事件	希望した後任者が得られなかったため、同村会が村立女学校廃止を決議し、俸給の支払を停止して新校長の赴任を拒絶した。	
1931. 03. 14 (S06)	実話 教育忌避の手続書 上田庄三郎	軍隊・学校・監獄の連想から小学校における教育は人間性を剥奪すると考え、 <u>義務年限中に無断で任地を離れて上京した教員Mに、不意転任の辞令が出た。</u>	時期、真偽不明

日 付	記 事 見 出 し 名	記 事 内 容	備 考
1931. 04. 18 (S06)	誅首された女学校長上奏して睨まる 憂ふべき教育界不安	以前退職を強要された千葉県下の元女学校長Sが、請願令によって内大臣宛に書留郵便を送り、上奏の手続きをとったため、宮内省は内務省警保局に通じ、警保局は千葉県学務当局に詳細調査を命じるなど大騒動に発展。	教育者の生活擁護の為の上奏か？
1931. 05. 30 (S06)	泰明小学校にゴタゴタ起る 一派が 校長排斥（東京府市版）	東京の京橋泰明小学校で保護者による校長排斥運動が起る。これに対して当局が校長を転任させようとしたところ、別の保護者の側が留任運動を起し、転任を食い止めたことからの問題となった。	
1931. 11. 07 (S06)	寄附に应ぜぬ様な校長なら追出せ 町会が凄い決議 長野県須坂町で	同町の町会では小学校教員の俸給 1 割寄附打ち切り問題に関し、「寄附に应じない不徳儀な教員は奉職してもらわなくてもいい、いずれかに転任してもらいたい」などという決議を行った。	

4. その他教員の不祥事関係

1929. 01. 12 (S04)	勅語紛失 熊本県銭塘小学校	元旦の拝賀式後 8 日に紛失が発覚。 <u>同校校長が県当局に進退伺提出</u> 。翌週「犯人」引致。	
1929. 01. 26 (S04)	「思想善導」受売で大儲 小、女学校 三百余校で 実は大変な代物	文部省教育囑託として数多くの学校で思想善導の講演を行ってきたNが、大阪市内で無銭飲食窃盗等で警察に取り押さえられた。	参考
1929. 02. 02 (S04)	訓導児童に重傷を負はす 千葉県印 旛郡で	同郡白井村小学校、授業中雑談していた高等科 1 年の児童 2 名に憤慨した受持訓導がコンパスで児童の頭部を殴り、重傷を負わせた。	
1929. 02. 09 (S04)	今度は窃盗訓導 徳山市の小学校	徳山小学校の教員Hが列車車内で公債等の入った風呂敷包みを持ち逃げ逮捕される。	
1929. 03. 09 (S04)	教授と学生召喚さる 宇都宮高農の	宇都宮高等農林学校の教授 2 名ほか学生 6 名を、過激文字の入ったパンフレット配布の件で召喚。	参考
1929. 07. 27 (S04)	岡崎師範生不穏文書を撒く 周囲の 種々の事情	同校生徒が防空演習中に不穏なビラを撒き、極左派の者と交際していたことが発覚。師範学校としては初の事で校長が進退伺を提出。	
1929. 08. 10 (S04)	半殺にして教へ児監禁 新潟県の訓 導暴行	新潟県二田村の小学校訓導某が自分の指導に従わない児童 1 名を殴打し、多量の水をかけた上で校内の押入れに監禁した。	
1929. 08. 24 (S04)	女教員の棄児 鹿児島県女子師範訓 導の家に	同県大崎村の某女教員が棄児により警察に召喚され、取調べを受けた。	
1929. 08. 31 (S04)	私立商業の校長贖職 岡山県下の疑 獄	同県の吉備商業学校の県営移管に絡む県議の汚職事件で同校の校長の現金収受が発覚。	
1929. 09. 21 (S04)	東京府下小学盟休事件は新旧思想の 衝突 潤徳小学校事件の真相	後に教育労働者組合運動などに関係する浦部史・増淵穂西訓導の不意転任事件。両者の受持児童が転任に抗議したが説得され、授業に戻った。	
1930. 01. 01 (S05)	叱られた高利貸教員 広島市小学校 で	広島市内の小学校教員の中に高利貸及びその手先になっている者が存在。市学務当局は厳重注意の上、今後同様の行為を行った教員は「断然たる処置」とすると警告。	

日 付	記 事 見 出 し 名	記 事 内 容	備 考
1930. 04. 12 (S05)	甦生の「児童の村」 一時のゴタゴタも解決 問題の土井君も去り	池袋児童の村小学校で、思想的に野村芳兵衛と対立していた土井訓導が退職。校内紛争が解決に向う。	
1930. 06. 28 (S05)	殴打教員検事局送り 長野県平根小学校	同校教員Yが児童を殴打、教育上あるまじき行為として父兄が憤慨、警察が取調べの上書類送検。	
1930. 09. 20 (S05)	女教員が教子と駆落 遂に妊娠の結果	横浜市の女性小学校訓導Tが元の教え子と駆け落ちし、出先より辞表を送付したため、大騒ぎになった。	
1930. 09. 27 (S05)	裏長屋にプロレタリア小学校 100%のイデオロギーを発揮近く解散か？	東京市大島町の製鋼所での同盟罷業に関し、プロレタリア小学校が開催されていたが、警視庁が文部省・府学務部と相談の上、解散を命じることになった。	
1930. 10. 04 (S05)	プロ小の先生検束 遂に解散	上記の小学校に対し警官が授業中に突入、 <u>5名の教員を検束</u> し、学校に解散を命じた。	
1930. 12. 27 (S05)	強盗の訓導教壇で捕縛さる 校金を盗み豪遊 鳥取県米子市の小学校	米子市の小学校訓導Mが校長の金庫から校金二百円を盗み出し玉造温泉で豪遊。その翌日授業中に逮捕される。	
1931. 01. 10 (S06)	教育界秘話（十七） 万引事件で新聞紙と闘った女教員大衆	大正12年頃、東京市内の百貨店等が女教員が盛んに万引を行うということを警察に訴える事件があり、萬朝報がいち早く報じた。これを東京市小学校教員会が教育の重大問題として取上げ、新聞社対教員会の論戦となった。	
1931. 01. 31 (S06)	教育界秘話（二十） 松原氏の校長淘汰並に賭博市議退治	後藤新平東京市長時代の小学校長淘汰の裏話。東京市の教員任命内規にあった区長の発案権が情実人事を生み出すもとであるとして、当時の府知事が松原荏原郡視学を学務当局に呼び戻して内規改正と淘汰計画を練っていたことなどを報じた。	松原はⅢの教員赤化問題でも発言した人物。
1931. 04. 18 (S06)	遂に延びて来た教育界政党化の魔手 校長異動で紛糾する千葉県教育会	今年春の教員の誠首転任に際し、県当局が県教育会の会長・副会長の民選論を支持する派の有力者を左遷したとの噂が流れている。また、一部校長教員の転任に際し、その留任を求める住民が学務部長室に押しかけ、警察が衝突する事件も生じている。	
1931. 08. 15 (S06)	元社会課員学校に放火 水平社を恨み	元大阪府社会課に勤務し、差別問題から解職されていたSが泉北郡南王子村小学校に放火した。Sはかつて、堺市商業学校にも奉職していた。	元教員か？
1931. 09. 05 (S06)	自責の小学校長天井裏で自殺す 一家五人を殺害して 奈良県磯城郡の学校	同郡の高等小学校長Kが一家心中。その理由は電車の無賃乗車を行ったことが県当局に発覚し、近く行われる異動で誠首されることを悲観してのことという	

5. 処分後の学校・運動等の状況がわかる事例
(1) 弘前高等学校長の公金費消事件

1929. 02. 23 (S04)	弘前高校長公金費消 事件の顛末	弘前高校のS校長が校友会費等約1万数千円費消した事実が発覚。生徒がこの事実に関心し同盟休校を行った。	参考、高等学校での処分事例。
1929. 03. 02 (S04)	弘高事件後報 校長休職 後任は戸澤氏	既報のS校長は検事局に出頭し取調べを受ける一方、 <u>閣議決定により休職処分</u> となった。	

日 付	記 事 見 出 し 名	記 事 内 容	備 考
1929. 03. 23 (S04)	問題の弘前高校で未曾有の落第生一年と三年は半数の篩ひ落し 戸澤校長の新刀の切味	前任者S校長は検事局召喚、依願免官、起訴猶予になる。新任校長が文部省からの指令により校内の「不穏分子」の一掃にのりだす。	
1929. 06. 08 (S04)	弘前高校長起訴猶予 同時に免官	前掲の弘前高のS前校長は家庭事情に情状酌量の余地ありとして起訴猶予、依願免官となった。	

(2) 東京女子師範学校・東京第二高等女学校の学校紛争事件

1929. 04. 27 (S04)	学校騒動の経験 (三) 結束の不十分から脆くも敗戦した 前東京女師教諭 濱田源二	女生徒の前での破廉恥な言動など人格・能力等の面から尊敬できない校長の排斥を企てたが、逆に「校長に反対するから」という理由で同僚3名とともに誅首された。	御大典の時は紛争一時沈静
1929. 07. 27 (S04)	金栗四三氏を追はんとして東京二高女また不穏 問題の田中一元校長休暇を待って金栗氏に辞職勧説	校内紛争の続く同校で、マラソンの指導で有名な金栗氏に校長が辞職勧告をしたことが発覚。反校長派の一掃がねらい。	
	田中校長腹心の女教諭 著書剽窃で免職 校長の同情で依願免職	前年の校内紛争当時校長派に属したH教諭に裁縫関係の著書の剽窃の疑い。H教諭は家事都合による依願免職を申し出ている。	
1929. 08. 10 (S04)	金栗四三氏と校長にらみっこ 問題の東京第二高女	同校の校長は金栗氏が辞職に応じないため、今度は休職にすべく当局に書類提出。また、校長はH教諭の辞職に際し、増俸の上依願免職とするよう当局に申請したが却下された。	
1929. 09. 14 (S04)	金栗四三氏遂に辞職 問題の東京二高女	校長と対立していた同氏は、遂に依願免職となった。	
1929. 09. 21 (S04)	気に喰わぬ教員を片端から追出す問題の東京二高女	その後も反校長派教員の追い出しは続き、前年から「学校の統一上困る」という理由による教員の休職者は計5名、辞職者が2名、転任1名にのぼっている。	
1929. 12. 28 (S04)	田中女子師範校長ますます感情化 (東京府市版)	東京二高女・女子師範校長の田中氏の奏任待遇関係の人事内申が校長派に厚く、反校長派に冷たくなり、ますます感情的なものになる傾向が強まった。	

(3) 被処分者のその後の生活がわかるもの

1929. 02. 09 (S04)	私の刻苦時代 (二四) 寒中も夏シャツ 自由ヶ丘学園長 手塚岸衛	手塚が明治35年に師範学校を出てすぐに勤務した小学校で、村の有力者との対立から「無断離任地」の理由で譴責になりそうになったが、郡視学のとりなしで転任になったことが紹介されている。	
1929. 04. 13 (S04)	学校騒動の経験 (一) 騒動を始めるのも治めるのも教員 自由ヶ丘学園長 手塚岸衛	手塚は師範学校生徒当時、附属小学校の訓導からそのかされ、附属主事の留任と校長・教頭の排斥運動を行っていた。その他、大多喜中学校事件の例などを紹介。	
1929. 04. 20 (S04)	学校騒動の経験 (二) 校長、舎監の排斥に廿八條の連判状 婦選獲得同盟 市川房枝	市川は愛知女子師範学校の生徒だった大正2年当時、良妻賢母教育の程度の低さへの反発から校長・舎監の排斥を行った。校長は2年後に辞めさせられたらしい。	

日 付	記 事 見 出 し 名	記 事 内 容	備 考
1929. 05. 18 (S04)	学校騒動の経験（五）生徒のストライキは教育革新のチャンス 東京帝大図書館司書 畠山花城	畠山の卒業した秋田師範学校で大正12年頃、広島高師出身の校長が東京高師出身の教員を無理に退職させようとしたことから騒動が発生。逆に校長が辞職するに至る。	翌号に補足記事あり。
1929. 05. 25 (S04)	学校騒動の経験（六）騒動の解決は青年の心に還れ 東京高等師範訓導千葉春雄	教員排斥問題が生じた時、その排斥されている教員に対し他の教員が生徒に迎合した態度を取ることがあるが、そのような教員こそ排斥されるべき存在である。	
1929. 06. 01 (S04)	学校騒動の経験（七）五十名の男女教員が校長排斥の連判 平凡社社長 下中弥三郎	下中が神戸市の小学校訓導だった頃、死亡した校長の後任として不満という理由から新校長になった同僚訓導を排斥し、他市の中学校へ転任させた。	
1929. 06. 08 (S04)	学校騒動の経験（八）学校改革の熱情で校長排斥を四回 東京府立五中学校 伊藤長七	伊藤は師範学校生徒当時と訓導になってから3回の計4回、校長排斥を企てた。3度目の排斥は、校長が実際放蕩で困っていたため、あとは学校改革が理由とのこと。	
1929. 06. 22 (S04)	学校騒動の経験（十）指の動かし方一つで大問題と言う所 独創学会主幹 千葉命吉	広島師範附属主事の頃「一切衝動皆満足主義」に不満を抱く校長などが講演活動等を妨害したため、同僚訓導が知事らに反対運動を行う中、千葉は辞職するに至った。	辞職しなければ校長排斥に
1929. 06. 29 (S04)	学校騒動の経験（十一）神宮寺浦の松原で連判状の血判 教育学術界編輯長 武田勤治	武田が大分師範学校の生徒だった頃、校長・舎監らの独断的強圧的学校経営に対する不満からストライキを起した。後に舎監が辞職したが、校長等はそのまま留任。	
1929. 07. 13 (S04)	学校騒動の経験（十二）白紙提出問題で校長と論争した 考え方研究社主幹 藤森良蔵	藤森は長野県の商業学校教員当時、生徒の処分問題で校長と意見が対立し辞職。また、青森県の中学教員当時も試験の白紙答案の扱いで校長と見解が対立、辞職した。	

Ⅱ. 教員の生活条件に関する記事

1. 任免, 身分待遇関係その他

日 付	記 事 見 出 し 名	備 考
1929. 03. 16	学校看護婦大会が職制発布の建議 十二日赤十字社講堂に於て 小学校教員の研究に博士の称号を与へよ 「文化書房」主幹 曾根松太郎 小学校教員も休職で入学される 校名は当分大学令によって 新設の文理科大学	奏任待遇不要 異性問題対策
03. 23	校長公選制への躍進 希望堂主 長谷川峰水	
03. 30	小学教員の異動に町村長校長の意見を徴すべし 道府県会議長会議議題 四月十一日より 東京に開会	
05. 18	女教員の服装取締 広島で開催の中等学校教務主任会議	
06. 15	中等教員の銚衡機関を設置 情弊に懲りた文部省	
07. 20	無冠の大夫結構也 小砂丘忠義	
07. 27	広島では喧しい休暇 生徒には作業科目を教師には修養問題を 小学校教員の肺結核患者約四千人 治療費が削られそう	
08. 10	教員の贈答禁止 神戸市長から関係者に嚴重なる通牒を發した	
08. 31	女教員の休養 真木野生投	
12. 07	社会教育の舞台に中等教員の進出 小尾成人課長語る	
12. 14	準備教育廃止申合 女教員洋装奨励 福岡市小学校長会	東京府下版 現職教育関係
1929. 12. 28	小学校長公選論 長谷 健	
1930. 01. 11	入学希望者への自宅教授を禁止 中等学校教諭に対し東京府から厳達	
01. 18	教員自宅準備取締に舞ひ込む感謝状 紹介状も一切受けぬと鼻息の荒い林学務部長	
02. 08	全国に率先し師範専攻科改革 休職給と就職の道 東京府学務部より通牒 小学校長の出張制限? 熊本県学務で	
03. 01	香川県で女教員服装の講習会 統一の為に	
04. 26	夫婦共稼の場合 日本橋十思小学校訓導 全国女教員会幹事 木内きやう 待遇非薄で裕福な高師訓導の生活 総理大臣に匹敵の収入 一方には生活に困る人もある 東京市教員の収支 男子百円, 女子七十五円 家賃が廿八円, 間代が十五円 (平均)	
09. 13	幽霊に栄転の事例 秋田県から情死の教員に 続々設置学校看護婦 身分の保障を 大西衛生官談	
1930. 11. 15	教員冷遇の建議 逆に町村長の権限を主張 大分県の町村長会	
1931. 01. 17	エロ舞台に女学校の先生 立つはよいか悪いか 時事問答 教員のエロ職業 文化学院教授 川崎なつ	川→河では? 海事思想普及
02. 28	教員に海軍生活味はず 三月三日から四月三日まで 東京市小学校教員会主催 (東京府市 版)	
04. 11	市教員の任免は今後, 校長に一任 視学は主に内容の指導に 画期的の改革	
07. 11	東京では最初の女小学校校長 木内きやう子さん 志村の第一小学校長に 金の要らぬ優遇案 減俸埋合せの妙案として師範校長, 教員の官等向上	
08. 01	代用教員の本任用益々難しくなる 府で教員任用内規の改正	
08. 15	教師への贈物廃止罰則が必要 訓令位では黙目 (当局者談)	
08. 22	教員任免に査問会 新潟県	
11. 14	府知事と市長の二重監督を廃せ 六大都市教育会協議会で決議して運動	
11. 21	高等小学校長会の決議 「高等小学校令」要求	
1931. 12. 26	私立大学高師部出身者と小学教員資格 各府県により区々 峯間商大教授調査	

2. 教員の給与関係

(1) 教員の減俸問題 (初任給減額, 賞与, 住宅料その他諸手当カット等も含む)

1929. 01. 19	「昇給」取消しで秋田県当局大弱り 小学校長会の申合失念のため 法的解釈が注目される	
. 01. 26	教員初任給引下げ 他の官公吏に比し優遇だと男子を四十円, 女子を三十二円に秋田県町 村長会決議/次は一昇給辞令は予算内で発令されたし 秋田県町村長会決議	
. 03. 30	小学教員の俸給値下げ決議 滋賀県の市町村長会が 新任の教員給五円ずつ	
. 08. 10	漫談四題 文部省囑託 前代議士 山樹儀重/教員給値下論	

日 付	記 事 見 出 し 名	備 考
1929. 09. 14	国庫負担増額が駄目なら教育費を削減する 作戦のうまい町村長会／初任給は高すぎる 町村長会福井主事談／法規上減俸は不可能 町村長会が決議しても無駄 文部省 山榎儀重氏談	学級整理にも関係
. 09. 28	教育不安続報／またまた俸給を出さぬ 宮崎県	
. 10. 05	教育不安の諸相／定期増俸見合せ 新潟県北蒲原郡の七ヶ町村緊縮の余地なしとて／神戸では安い洋服 教員らしい制服／秋田市では六学級整理 八千円の緊縮	
. 10. 19	教育不安迫る 百円以上は少数だし百円以下は御安心 官吏の減俸問題に対し野村文部次官は語る	
. 11. 02	教員初任給低下運動 北海道の町村長	
. 11. 09	減俸の決議は違法 中等教員の初任給減額には頑張れない 野村文部次官談	東京府下版
. 11. 16	初任給減額には賛成だ 東京府学務部長 林 茂氏談 東京府下では運動会取止 教員昇給も見合せと町村会で決議	
1929. 11. 23	吹き荒ぶ教育不安風／学級や定員を減少 県立中等学校に対し新潟県の削減予算／各小学校長が理事者非難 不当な削減に 秋田県仙北郡校長会／停滞俸給に国庫負担金をそのまま支給 秋田県で窮策	教員整理にも関係
1930. 01. 18	小学教員の初任給減額か 新潟県の雲行 長野県各地で教員給削減 憂ふべき現象	東京府下版
03. 01	教員賞与二割減 呉市で決定	
03. 15	板橋町会で教員住宅料を削減 問題の重大化に狼狽する当局 学校側は成行を重視	
03. 22	教員減俸を文部省が調査 捨て置けずとみて局長から地方長官に照会 教員不安時代ますます深刻 平均給十二円を削減す 新潟県での事実／宮城県では四ヶ町村減俸／教員減俸五十ヶ町村 埼玉県下の疲弊 間違だらけの教育の実際とその議論（其の七） 教員の減俸だけは無惨だ どうかして取止めたい 易水学人	
03. 29	思想概観 教員減給問題 悲しむべき事実（東京日日）	
04. 26	何故の教員減俸 その由来と現実を観る 主幹 為藤五郎 教員俸給は減ずべからず 東京市日比谷小学校長 中澤 留 減俸反対など叫ばぬ方がいい、罷免は止むを得ぬ 文部次官 中川健蔵 時も時 初任給引下を町村会は決議 聯合教育会と同日の二十四日宇治山田で	春季特別号、 以下3件同じ
06. 28	町村長会がまた教員減俸案 農村振興策を練る町村長会幹事会 教員俸給二割減 長野県の農民組合から村当局者に要求	
07. 05	時事問答 町村長から見た教員減俸 全国町村長会主事 福井清通 長野県下に拡る教員給減額運動 成行重大視さる	長野・南佐久 長野・小県郡
07. 12	町村長と校長の対談 長野県の教員給減額問題深刻	
07. 19	教員給減額の魁 五十円以上三割、以下二割 長野県の本牧村 決議が通らねば学校を閉鎖する 埼玉の農民減俸を強請 農民四割、村吏五割	
07. 26	四面楚歌 教員受難時代 教育制度の改正と公務員の減俸 農村の窮状を訴へて教育問題に及んだ全国町村長会議 無断欠席二百名に達す 減俸案から。 教員給減俸から小学児童の盟休 各郡に紛糾を重ねる長野県	
08. 02	教員減俸問題と俸給令と対比 その結果減俸絶対不可 岩手県学務課 愈々府下にも教員給値下実現 村長以下役場吏員連袂辞職 西多摩郡西秋留村 暴風の如き教育減俸長野県下を襲う 俸給半減、寄附強要、盟休、天引等々 極度の不安に襲われる教員 教員給問題は暫く形勢観望だ 篠原普通学務局長語る	
08. 09	教員給値下に府学務部の協議 政治的策動を恐れる当局 青訓等の手当削減で無事解決 長野県東内村 四割の減俸に教員が応ぜぬとて五百の児童を盟休 長野県春日村小学校 不満なら辞職せよ 一斉に四割減 宮城町村長会 福岡県でも負けずに教員減俸に着手	東京府下版 県内各校の状況記事多数 東京府下版
1930. 08. 16	各府県の減俸風 三多摩地方の減俸には東京府当局強硬 同じ長野県で俸給寄附申出 下伊那の松尾小学校 減俸問題を町村長会附議 秋田県で 時事問答 教員給減すべきか 前帝国教育会主事 野口援太郎	

日 付	記 事 見 出 し 名	備 考
1930. 08. 23	教員給減額の寄附強要を禁ず 無理な学級整理も相ならぬ 文部内務両次官の通牒 村理事者が県当局に陳情 広島県で	新潟・岩船郡 東京府下版 秋田・雄勝郡
08. 30	通牒により教員減俸防止 鹿児島県の尽力 教員減俸と教育改造を叫ぶ 高等教育偏重、非実際教育、教育費過大の弊を破れと全国 町村長会総会	
09. 06	減俸一人当八十五銭 県でも承認か 弱い教員への影響それが一番恐しい 西多摩郡の減俸決議に対し羽生府学務部長談	
09. 13	教員減俸を村民から要求 村当局の節約宣言に逆襲して	
09. 20	通牒など無視減給の決議 岐阜県町村 秋田県で減給可決 三日の町村長会	
09. 27	議員と教員互いに対峙す 俸給二割減から 減俸問題に凹むな引き締って働け 県当局から叱られる福岡県の教員諸君	
10. 04	減俸問題で教育家と町村長激論 秋田県で	
10. 25	教員給引下一戸当二三銭 寧ろ貧困児童の救済に当てよ 長野県の山村 長野県で今度は中等教員の減俸 でなければ破産に瀕すと町村長会の与論	
11. 01	教員給の削減は「慎重に考慮せよ」と府知事町村長に訓示	
12. 20	村長、学務委員等が村長に減俸相談 手当、賞与等は一切廃止 新潟県北魚沼郡	
1930. 12. 27	北海道庁も教員減俸対策 絶対に容認せぬ 減俸は法規上できぬ 大分県知事不許可	不良教員淘汰 も議論に
1931. 01. 03	値切られた高師出の初任給 その他の養成所出身者も	
01. 10	俸給引下問題で議論が沸騰せん 学務部長会議の中心問題	
01. 24	福岡県教育界大恐慌／町村長会に教育会厳談／県学務の当局強硬 町村会の減俸案には	
01. 31	関東一体に教育不安嵐 東京以外は初任給引下げ 減額、減員等々 各県学務部長会議の 報告	
03. 07	世は様々 減俸希望者と反対の総辞職 三重県で減俸申出 京都府で全職員辞職 西巣鴨町で教員の住宅料全部削減	
04. 11	減俸内議は無根 教育界の動揺を恐れ普通学務局長より通牒 教員の減俸、誠首自然によくなる いろいろ苦心はしている 篠原普通学務局長談	
05. 09	官吏と共に減俸 物価指数による俸給令改正今秋でも断行か？	
05. 23	私学教員から見た教員の減俸問題 中、女、小学校長に聴く 減俸は国論教員も免れまい 不当な処置あらば大に擁護する 横山政務次官談	
05. 30	教員減俸は実際上避け得る 法規上、実際上から見て町村長の意味で 教員減俸でどれほど浮ぶか 町当局者に聴く	
06. 06	小学校教員に二重減俸の懸念 全国町村長会の雲行きから 教員減俸官吏と差別なし 無理のない学級整理は可 篠原局長談 貧弱町村には響かぬ教員減俸 市内四割隣接町村一割 減俸者の割合 減俸の穴何で埋め合わせるか 世帯の實際を聴く	東京府市版 教員生活の実 際を聞く
06. 20	小学校教員減俸令愈々発布 七月一日より施行 府県令により実施される 教員減俸額府市で廿三万円 その金はどこへ行く？	
1931. 06. 27	減俸はしたが、内務省不払寄附熱過か 文部省の通牒も水泡 硬骨の愛媛県下の町村長会	

(2) 教員給与の不払問題

1929. 02. 16	教員の給料不払三ヶ月に及ぶ 沖縄県大里村 村政紛擾の飛沫から	不払3ヶ月 波合村
. 04. 20	此処にも俸給不払 千葉県大須賀村	
. 06. 15	またも俸給不払 広島県沼隈郡で小学教師に	
. 08. 10	又も長野で俸給不払 村税滞納のため 五月以降三ヶ月間	
. 09. 14	此処にも俸給不払 村政紛擾から三重県で	
. 10. 26	村税未納で教員給不払 秋田県錦木村	
. 11. 02	給料不払のため教員が税金取立 乱脈極まる秋田県雄勝郡 ここでも不払廿町村 秋田県仙北郡	
1929. 11. 16	俸給不払三十二町村四十一校に及ぶ 秋田県で	

日 付	記 事 見 出 し 名	備 考
1930. 01. 01 05. 03 07. 19 07. 26 08. 02 08. 23 09. 06 10. 04 11. 08 11. 22 11. 29 12. 20 1930. 12. 27	<p>廃校届を怠り教員給支払が出来ぬ 村当局の怠慢で またまた教員給不払 例の秋田に 教員給また不払 長野県波合村 教員給不足八十八校 新潟県の小学校 教員給は半額支給 向ふ三年間 宮城県小原村で決議 村税通減に休校を決議 これも宮城県 四月から今に払わぬ 新潟県東蒲原郡の三村 教員給を小切手で支給 山形県の山村 俸給未払三ヶ月 熊本県府本村 教員給不払のため我子の授業料不能 そのために出校停止 先生には貸し売御免 俸給不払のため支払出来ぬ秋田県鹿角郡 教員が税金取立て 困り抜く秋田県仙北郡 瀕死の村に見る俸給不払の実状 中には九月以来の不払 府下西多摩郡の惨状（特派記者） 行けば行く程深刻な俸給不払 思わず漏らされる悲壮の言 府下西多摩郡の惨状（特派記者） 俸給不払から味噌醤油の不払 長野県波合村 今度は俸給不払に警告 頭痛鉢巻の文部当局 中川次官の通牒 歳末を控えて教員給不払深刻 三つ巴の渦を巻く長野県下 いつ解決するとも知れず 俸給未払廿五ヶ町村 鹿児島県の窮状 哀れ不払の悲劇 四月以来月給を貰へず 例の長野県波合村</p>	<p>大分県の例 宮城・刈田郡 秋田・仙北郡 東京府市版 東京府市版</p>
1931. 01. 01 01. 24 02. 28 03. 28 04. 04 04. 18 04. 25 08. 08 10. 31 1931. 12. 05	<p>新年特別記事（其一）昭和六年に残された問題 教員給不払問題解決の二途 訓示位では間に合はぬ 国民教育奨励会理事 相澤 熙 教員給不払四ヶ月 長野大岡村 教員の俸給未払五百八十ヶ町村 寄付は六百九町村 三十県中で 又も波合村七ヶ月不払 長野県下の難村 問題化する国庫配当金の使途 未払のまま持越すことはあるまい 篠原局長談 信託会社に借金してやっと月給支払 秋田県の教員互助会 寄付申出か俸給不払か 熊本県当局から警告の通牒 まだ俸給不払五ヶ月に及ぶ 長野県波合村 俸給不払の被害教員八千人 内務省地方庁に通牒 俸給不払による教員の借金六万円 文部省の調査</p>	<p>積極財政を求めるもの。</p>

（３）教員給与の寄附強制問題

1930. 08. 09 09. 20 10. 04 11. 01	<p>新案の「教員減俸」流行す 名は寄附、実は削減 愛知県で先ず実施／新潟県でも強制寄附／長野県でもここでは任意寄附 俸給一割寄附 長野県須坂小学校 任意の形式で 小学校長会に議場混乱 長野県当局に教員側詰寄る 教員給の一割を寄附 長野県青木村</p>	
1931. 03. 21 05. 23 08. 08	<p>電話口放送 職権濫用 「教材集録」主筆 佐藤隆徳 九州各県の教育界到る所寄付強要 俸給未払の大関は熊本県 九州聯合教育会で 教員の寄附三割に達す 新潟県の実状</p>	<p>寄付強要は違法との談話</p>

（４）その他給与関係

1929. 05. 18 06. 01 06. 22 07. 13 07. 20 08. 31	<p>小学校長の俸給は直接県から支給せよ 地方長官会議に長野県提出 教員俸給問題 畠山花城 民政党教員俸給調査 その委員会 教育費国庫負担増額問題は延期 一途に金解禁に向って一枚看板の放棄 与党有志代議士教育費増額進言 公約履行の意味で 中等教員初任給の引下げ 全国学務部長会議</p>	<p>民政党批判</p>
--	---	--------------

日 付	記 事 見 出 し 名	備 考
1929. 08. 31 . 09. 07 . 09. 28 1929. 10. 19	小学教員俸給 (東京朝日新聞) 教員給値下問題の喧しい時中学教諭に二百円増俸 新潟県の優良教員引止策 「教員不安時代」来る 経済的にも社会的にも脅威襲来 頻発する各地町村長会の決議 重大なる社会問題 教育費増額は教育問題ではない 町村長会が血眼になる譯 一記者 教員給と危険思想 池田種生 月給は削っていい ABC生 郡部の教員は俸給増加率がよい 俸給から見た府教育界(東京府下版) 小学校教員は知識の切売に非ず 東京府下第一小平小学校訓導 富宿三善	転載記事か？ ABC生批判
1930. 02. 01 02. 22 03. 01 03. 15 03. 22 03. 29 04. 05 04. 12 04. 19 04. 26 05. 03 05. 10 05. 17 08. 23 10. 18 12. 13 1930. 12. 20	間違だらけの教育の実際とその議論(其の四) 教育費の国庫負担は宜しく実行すべきも その理論必ずしも絶対ではない 易水学人 教員給の国庫負担問題に就て 易水学人氏にきいていただきたいこと 藤原正司 間違だらけの教育の実際とその議論(其の五) 教育者優待論の根本に誤りがある、もっ と精神的 易水学人 俸給制度を改革せよ 尼子 止 教育費増額をめぐって 教育者側の言分 町村長の言分 教員俸給物語(一) 給料が少くて娘の結婚費に困った室鳩巢 一記者 教員俸給物語(二) 師範卒業生の俸給に優中劣の等級 一記者 教員俸給物語(三) 二十五円の月給に対し一円半の家賃 一記者 教員俸給物語(四) 一年の月謝天保銭四枚家賃五十銭也 一記者 小学教員平均給 全国市町村に於ける 文部省調査 巡査と何れが裕福 東京と地方は差異があるが全収入は教員に遜色がない 私立小学に於ける僕等の生活問題 児童の村 野村芳兵衛 教員俸給物語(五) フランスの任地加俸とベルギーの家族手当 一記者 教員俸給物語(六) 臨時手当七割を給与し内職をも奨励 一記者/教員の内職問題 奨励 した中橋文相 教員俸給物語(七) 俸給の半額で家族生活一ヶ月に金貨一枚 一記者 教員俸給物語(八) 増俸問題で小学校長が郡長に肉薄的一幕 一記者 教員給保障案を作れ 逸名氏 今度は国庫負担金の申請 全部採択を文部省に交渉 問題の長野県で 高師卒業生にも初任給引下げか 地方師範との振合から 文部当局語る あはれ、板挟み府県の学務部長 内務、文部二つの目の前に緊縮政策の悲劇/部長曰く 東京府下の初任給引下げは決定したとは訛伝だ 絶対にせぬとも言へぬ微妙な言葉 減俸が出来ぬので教員に特別税 景気よくなれば廃止 新潟県巢本村 教員特別税愈々県へ申請 新潟県巢本村 不景気をよその教員のボーナス 昨年と変りのない東京府市 月給不払の町村は別	本名は湯原元 一。 増俸よりも精 神的優待を。 春季特別号、 以下3件同じ
1931. 01. 17 02. 14 02. 28 03. 28 05. 02 05. 16 06. 13 08. 01 1931. 12. 19	教員特別税禁止 内務省で決定 小学校長の俸給は府県から 師範学校に教授を置け 師範学校長会決議 この議会に初めて教育問答 貴族院で紀男から 文相、内相の答弁 市教員の平均給校長百八十円 平教員は八十四円 代用教員を切り離して また、教員給全額負担の叫び 九州沖繩町村長大会 国庫負担金を特別会計とせよ 教員給問題解決のため近く通牒 府下小学校長俸給平均百五十三円 百円以上は五百八十名 府学務部の調査 教員は泣面に蜂 百円以下の教員に対し戸数割増課の悪傾向 不景気の暮れにボーナスはいかが 文部省、府市に聴く 減俸から物価騰貴 二重苦に喘ぐ教員の経済生活	紀俊秀男爵か ? 寄付強要問 題等を議論 東京府市版 東京府市版

3. 教員の恩給・年功加俸関係

1930. 01. 18 03. 22	年功加俸を低下せん 新潟県の計画。 九万三千六百円を私学教員の恩給 補助に文部省から交付	
------------------------	---	--

日 付	記 事 見 出 し 名	備 考
1930. 04. 26 05. 24 05. 31 07. 12 1930. 12. 20	恩給の話 一時恩給普通恩給 法規を判り易く説明すれば 長野県で加俸取消拡大 反対運動を恐れて告示を急ぐ 教員俸給物語（九） 年功加俸に緊縮の傍杖 薄給で結婚難 一記者 教員俸給物語（十） 東京府の恩給百万円 最高給が二千元 一記者 教員恩給の制度改正等全国市長会より陳情 首は切りたし、恩給に困る 十五ヶ年以上勤続教員をどうするか 大分県の悩み	春季特別号
1931. 04. 18 05. 09 05. 16 06. 13 07. 25 08. 01 08. 22 08. 29 1931. 09. 05	読者応募此無駄を省け 変な僻陋加俸 石川 亀岡生 恩給基金小学教員にも負担させよ 地方長官主張 府下教員の年功加俸五十万円 好景気時代の残存物とて問題になる 年功加俸問題で文部省また屈服 反対もその甲斐なく減額の改正令遂に成立 加俸の減額は給与の精神に反す 東京本郷小学校長 松下專吉 女教員の恩給年限男子より短くせよ 恩給改正案に大体賛成 相澤熙氏談 恩給目当の退職 市町村は喜ぶのが困るのは府県 教員恩給令改正に五ヶ條の陳情書 行財政整理審議会に提出 全国聯合小学教員会 生存年限十年弱 恩給受領後の平均年齢 最も不安な問題は退職時の昇給率 新恩給法と教員 教育不安問題に教員会奮起す 特に恩給改正案反対に全国代表者が猛運動	東京府市販

4. 教員の需給関係（教員整理・教員不足・教員募集や転任希望等）

1929. 03. 16	東京市では小学教員の洪水 地方からの就職は当分絶望 山内市視学課長談	学級整理他
04. 06	村財政疲弊のため小学校閉鎖の決議 広島県沼隈郡郷分村	
06. 22	教員を減じ漸く開校 広島県郷分村	
11. 09	道県会議員会で論議された教育問題 東北七県の	
1929. 12. 07	東京は教員が満員上京教員はお断り 増田職員掛長語る 福岡県の中等教員整理 廿学級以上の学校は一学級を減ずる	
1930. 02. 01	中等教員の就職難時代来る 東京高師卒業生配置に就き馬上主事語る 師範出よりも代用歓迎 長野県下の傾向	東京府市版
03. 01	児童保健のため疾病教員の整理 教員の栄養, 体育, 疾病治療も 岐阜県で新学期から断行	
03. 08	教員過剰の種々相／高師出にも就職難／ここでは女教員の過剰 新潟県／配当と待遇の両 難の福岡県／台頭してきた福山師範廃止説 広島県の大問題／働き盛りを首か 熊本県	
03. 22	教員不安時代ますます深刻／学級減と安教員要求 秋田県の実状	
04. 05	至る処に異動の大旋風来 教育界ますます不安／整理二百七十名 千葉県／異動総計七百 余名 宮崎県／古参者の大整理 熊本県／校長異動百八名 広島県／退職二百五十名	
04. 12	退職者の救済に府令の一部改正 退職後六ヶ月以内に就職出来る様に 各府県の教育界誠首なほ頻々 既に一万人突破 事もなげに平気を装う文部当局者	
05. 03	小教員の多数は働き盛りを首! 恩給費は近く百万円に 福岡県の教員年齢調べ	
05. 31	中学校長大異動に非難 福岡県で二十余名	
07. 05	地方教員上京の禁を解く 東京府学務部で内規替へ	
08. 09	長野県の教員減俸騒動 一校で教員十六名減首 校長の悲痛な覚悟で解決 伊奈町の小学校	
08. 16	内務省が学級整理の計画 文部省は極力反対を表明 その成行注目さる 一般予算削減で学級整理中止 村吏等も減俸 長野県神科村	
08. 23	なお熄まぬ教育不安 財源捻出の為に師範一校廃止か 静岡県で計画中	
08. 30	村財政難で教員入替嘆願 成行注目さる 九月早々, 市教員七十名位の退職 入営中の新卒を迎えて 廣田視学課長の腕試	
10. 04	専科教員を整理 市内の高給者十数人 新卒者の退官を機会に	
10. 11	又も内務省に引摺らるゝ文部省 三学級二教員制や学級整理 不安を促す通牒／無論賛成 できぬ 学級整理は止むを得ない 民政党代議士 山榊儀重氏談／欠陥だらけの三学級二 教員制 往年その實際を調査した志垣寛氏は語る	
	教育界秘話 (五) 幾多の話題残る三学級二教員主義	
10. 18	村長が代用教員 校長欠員, 緊縮の趣旨から 長野県北穂高小学校	
11. 01	師範生の給費半減 中学, 女学は学級整理 大分県の予算	
1930. 12. 27	予算縮小の犠牲 体操教員整理 松本市で	広島・甲奴村 東京府下版 東京府下版 <

日付	記事見出し名	備考
1931 01. 17	師範の学級整理 昭和六年度には三十学級位か 師範合併は未定	
01. 24	高師新卒業生配当が頭痛の種 不況、学級整理を前に学校当局者悩む 新潟では八十学級整理 市部は増加	
01. 31	福岡県教育界大恐慌 中等教員六十余名を整理／小学教員五百名整理する当局の腹 師範卒業生解放か 他の就職を許す 長野県	
02. 07	恐慌来の福岡県教育界 八百余名を休職 町村長会の計画 和歌山でも路頭に迷ふ師範卒業生 三分の一就職難 師範新卒業生に就職猶予の説 有能教員淘汰は損失だと新潟県知事が	
02. 14	教員四百名淘汰 大分県当局	
02. 28	中等教員淘汰頻々 秋田で四十名 師範卒業生の義務年限は廃止されぬ 府県令の改正を要す 福岡県の方針	
03. 07	時事問答 師範出の就職難 新現象を如何に解釈すべきか 文部省普通学務局学務課長 小笠原豊光 この不景気、恐慌時代に就職難を知らぬ高師卒業生 夫婦共稼ぎに受難 大分県で一方を淘汰	
03. 14	高給教員をやめさせ代用教員に任用 新潟県の意向に教育界不安 矛盾した共稼ぎ淘汰反対 大分県教育界	
03. 21	教員淘汰の新例 裕福な教員を自発的に勇退させて、その後に新卒業生配当	愛知県
03. 28	小学教員淘汰予想程多くない 全国の状況に文部省は楽観 新潟県の淘汰六百数十名 教育界恐慌 師範新卒の各市郡割当定る 疲弊の三多摩地方に多く隣接市には少く 予算決せず当局配当難 福岡県各町村	東京府市版
04. 04	電話口放送 根本的計画 帝国小学校長 西山哲治	人員配置計画 の必要性強調
04. 11	宙に迷う専攻科出 熊本県でも新卒配当難 淋しや！ 失業教員の行方 過去は、将来は 臨教出の就職率僅かに四分の一 高師はやっと売約済 英、国、漢は売れ口悪し	3名の意見記事
04. 25	東京高師訓導に久しぶりの異動 勇退や転任の三人	
05. 09	経費節減に学校、教員の整理 内務当局、地方長官と共に呼応	
06. 13	大阪市で始めた小学教員採用試験 東洋大学教授帝国小学校長 西山哲治 誠首の立証教員年齢の若さ 小学校は卅歳、中等校は卅五六歳 帝国教育会で調査／続いて初任給調査 帝国教育会で	
06. 20	痛ましい教員平均年齢 新潟県では平均廿九年 若くない市の校長連 東京市小学校長平均年齢五十歳	東京府市版
07. 11	内務省立案の教育縮小案？ 学校配合定員増加節約等々 高を括る文部省 また教員が過剰 大分県が悩む	
07. 25	ますます教育縮小 校長の数校兼任 内務省の整理案 「そんな馬鹿げた事が」篠原局長語る	
08. 29	短現退官で整理難 大分県教育課	
09. 05	有って無きが如き文部 内務省の尻に敷かれ馬鹿げた整理案 賛と否 整理準備会の教育整理案に対する文部省の態度 時論の片鱗 教育費の節約教育を殺すな (大阪朝日新聞)	
10. 03	破壊に等しい地方教育縮小案 総額三千五百万円 内務省から密かに通牒	
10. 17	師範を出ても教員にならなくてよい 福岡県で自費生の新規定 不況時代を余所に学校看護婦は発展 昨年より二百六名の増加 文部省体育課の調査	
1931. 11. 21	臨教五ヶ所を廃止 残るものは四ヶ所 更に一割の予算削減	

5. 殖民地教員關係

1929. 02. 09	朝鮮教員の優遇 四十人まで奏任待遇	
1930. 04. 05	至る処で異動の大旋風来 教育界ますます不安／一斉に初任給引下げ 台湾全島	
08. 09	在外小学校長をも奏任待遇とする 目下法制局で審議中	
09. 06	巡査が学校教師 台湾の蕃地教育を見る 国民教育奨励会理事 相澤 熙	
11. 08	関東州在勤小学校長優遇令 五日官報	

Ⅲ. 教員運動及びその取締りに関する記事

1. 教員の政治運動関係

日 付	記 事 見 出 し 名	備 考
1929. 03. 09 05. 11 05. 18 05. 25 1929. 06. 08	教育界から乗出した市議候補 抱負如何、戦況如何 さすがは秋田 訓導が議員当選 既に五名に及ぶ 「望ましからず」文部省では日ふ 但し一切の権能は知事 結果案外によい訓導の議員兼職 寧ろその機運を醸成したいと聯合教員会総会で協議 「望ましからず」とは何だ 某教育評論家談 議員は小学教師に鬼門？ 但し静岡県では兼職を知事が認可／触らぬ神に祟りなし 東京府下某小学校長談／度胸と結束力が大切だ 兼職は可、政党加入は不可 尼子止氏談 時論時評 教育者の政治的関心 明星学園長 赤井米吉 小学校長で町会議員に当選 東京府瑞光第一校長 本橋元治氏	
1930. 01. 11 01. 18 01. 25 02. 01 02. 08 03. 01 03. 08 03. 15 05. 03 05. 10 05. 17 08. 02 1930. 08. 30	教育関係から立候補する人々 前回立候補の人は・・・全部再起確実 教育者の応援選挙に役立つか 経験家は語る一政戦を前に興味ある問題 選挙革正と教育者 明治大学教授 池岡直孝 教員の政党化には断然たる処置 政、民の如何を問わず 野村次官語る 教育界からも政界浄化の声 総選挙を控へて教育諸団体から挙る／疑獄候補の糾弾並に教育者の政治的自由へ 教育記者新人会 教員の応援演説は可いか、悪いか 自ら墓穴を掘るものと言ふ篠原普通学務局長 選挙は恐ろしいものではない 進んで革正に当れ 一記者 総選挙に面じ戦々恐々の学務部 選挙後の圧迫さへなければ 教育者の推薦応援の通牒に就き府学務部で語る（東京府市版） 愈政戦に立つ教育畑の候補 その経歴、戦況はどうか 当選、得票共に好成績だった教育関係の代議士候補 今後の活躍に期待する 女教員には特に婦選が必要 文化学院教授 河崎なつ 「婦選」に関し河崎女史へ 東京市十思小学校 木内キヤウ 政民両党より治警法改正案提出 教育者、僧侶等の政治結社加入を認める 時事問答 治警法改正と教員 民政党代議士 山樹儀重 教員の政治結社加入 衆議院の委員会で通過 大会を開く中等学校女教員 女高師桜蔭会総会で決議 婦人参政権も研究 教育時事満言 政党の弊教育までも蝕む 前文部次官 栗屋 謙	
1931. 02. 21 05. 23	議院通過か教員の政党加入 文部省に一人の異議 山樹代議士奔走 婦人公民権は当然の事 女教員会に列席した感想を堀口督学官語る	

2. その他教員運動関係

(1) 教員の減俸・減首等反対運動関係

1929. 08. 17 08. 24 10. 12 10. 19 10. 26 11. 02 11. 09 11. 16 11. 23	教員の任免に議員容喙するな 高給教員を忌む町村長もいけぬ 鼻息の荒い沖縄県の小学校長会 義務教育費増額促進の運動 教育評論家協会起つ 減給問題を討議 教育記者新人会 十月五日教育会館で 減給反対 記者新人会近く運動開始 週間雑誌 減俸は増税 為藤五郎 帝国教育会、遂に教育擁護に奮起す 減俸問題は解決したが初任給、平均給の減額に反対して 記者新人会も減給反対声明 減俸案とは別 減俸騒ぎ後日譚 教育評論家協会、帝国教育会委員を挙げて決議 師範同窓会も減俸反対 更に対策協議（東京府下版） 教育擁護の与論を全国的に喚起 緊張する帝国教育会 各団体結束して教育擁護大会 減俸防止運動日程 教育擁護へ連日の猛運動 全国の常設委員上京 教育者が集まって生活問題を協議 芦屋児童の村小学校で 教育不安の事実いよいよ調査開始 帝国教育会の教育擁護委員会が 真の指導者なきを憂へる 渡部政盛	12/26～28 擁護運動批判
--	--	--------------------

日 付	記 事 見 出 し 名	備 考
1929. 11. 30 1929. 12. 28	風向の悪い初任給低下問題 要路の人に賛成者 教育擁護実行委員会 一段落を告げた教育擁護の運動 教育擁護大会 県当局に対し減給反対の強談 市町村当局に対抗して蹶起した長野県校長会	
1930. 01. 25 02. 08 02. 15 03. 15 03. 22 03. 29 04. 05 04. 12 04. 19 04. 26 05. 03 07. 26 08. 16 08. 23 09. 06 09. 20 10. 04 10. 11 11. 22 1930. 12. 20	町村長に対抗して削減反対の烽火 長野県で教員側から挙がる 正に幻覚的論断 渡部政盛氏に与ふ 芦屋児童の村小学校 大島清蔵 正に幻覚的論断 渡部政盛氏に与ふ 芦屋児童の村小学校 大島清蔵 義務教育費問題で増額案の支持へ 帝国教育会声明書を発す 減俸、罷免防止をも声明 より以上の幻覚的暴論 大島清蔵氏の眼裏の清算文 渡部政盛 初任給減額反対 義務教育費増額と共に代議士当選祝賀を兼ねて教育評論家総会 初任給引下問題愈々重大化す 愛知県の問題に端を発し町村長、教育会互に対抗運動開始 ／擁護委員会召集 帝国教育会の対策 教育界人国記（其十六）愛知県の巻（二） 遍歴記者 我等は時局を如何に戦ふべきか スパイ的存在物の清算 芦屋児童の村 大島清蔵 教育界と町村長協議会開催か 初任給引下げ問題で次官からは通牒 初任給低下反対 国庫負担額断行の陳情 全国小学校教員会 東京市小学教員会 教育界人国記（其十六）愛知県の巻（三） 遍歴記者 瘦馬の尻を叩く この上に月給を下げるのは 瀧澤菊太郎 教員給の全額国庫補助建議 東海市長会議で 教員減俸防止のため一路、教員会の結成へ 四月廿三、四、五日東京で聯合教育会緊急大会 聯合教育大会提出の議案の大綱決定す／（第一号議案）小学校教員俸給根本的解决方案／ （第二号議案）小学校教員の地位の安定をはかるべき方案如何／（第三号議案）如何にし て全国小学校教員会を組織すべきか 教員不安時代を物語る 見よ、全国的減俸嵐 初任給引下、減首、学級整理 聯合教育 会にて報告 教育費問題で戦った教育運動の思い出 全国町村長会との提携 減俸防止、減首反対に教育擁護の聯合大会 全国から続々上京、各種の議案可決 癪に障るその意気地なさ 真木野 宏 俸給未払を防げ 秋田県小学校長会議で地方課長に要望 聯合教育会が減俸の実状調査 長野、埼玉、宮城各県の教育会幹部を召集 福岡県教育会は町村長会と懇談 減俸問題に関して 減俸の形式を問わず校長側強く出る 秘密会で凝議 長野県東筑小学校長会 夏休も休めぬ三多摩の校長連 教員給値下、寄附強要に対し府当局と対策協議 教員の地位を擁護せよ 帝都教育会が関東教育会へ提題 応分の寄付は致し方がないと 弱腰を見せた長野県の小学校長会 教育費全額負担に信濃教育会は反対 関東聯合教育界の論題 中心問題は小学教員会の設立 全国小学校教員会議で 生み、育つるの悩み 現存の教員会を全国的結成へ 併合でも、合同でもない全国教員 会の決議／全国教員会の団結は不純な動機だと長野県では拗ねる 関東聯合教育会で反対 の覚悟 11. 22 小学校教員の危急存亡の時だ と地位の安定を要求した全国聯合小学校教員会 1930. 12. 20 時事問答 どうすればよいか教員給不払対策 帝国教育会主事 大島正徳	安曇郡など 労働者の生存 権を主張 「人国記」で 愛知県の初任 給問題を扱う。 渡部再批判。 春季特別号 以下2件同じ 東京府下版
1931. 01. 03 01. 31 02. 14 03. 07 03. 21 04. 18 04. 25	不払の防止に教員俸給保障案 やがて一致協同の機運へ 教育記者新人会奮起す 全国の教育会から義務教育費増額の請願 帝国教育会を中心に 教育擁護に奮起 福岡県教育会 各府県との共同戦線へ 教育知事佐上氏自分から教育擁護 京都府教育会でも好評 教員給削減不払に帝国教育会起つ 徹底的に対策講究 十六、七全国代表者の総会 米、味噌代にも困ると教員代表悲痛の叫び 文部当局の不誠意を難詰 全国聯合教員会の 総会／この事実、この声に聞け！！ 空前の寄附強要、不払等 四千の問合に一千の回答 だが 04. 18 悲報刻々来る！ 俸給全額を国庫支弁とせよ 窮迫町村へは資金融通を 聯合教育会実行 委員会 04. 25 府県に教育調査会設立 聯合教育会総会に附議 六月中旬教育会館で	

日 付	記 事 見 出 し 名	備 考
1931. 05. 23	減俸問題に教員も黙視せず 全国小学教員会を背負って実家陳情 生活の窮迫を訴へる女教員 全国女教員大会で 教育尊重より先づ教員の尊重 何よりも生活問題に花が咲く 女教員会詳報	東京府市版
05. 30	時事問答 踊らぬ学校教員 東京市愛宕小学校長 中澤 留 美衣を纏うた減俸反対決議案 大した問題もなく終わった中学校長協会総会 帝国教育会の総会 二三幹部の思ひの儘に決定 評議員は全部会長指名 減俸「考慮」案 多数決	
06. 06	教育擁護大会 大演説会で氣勢を 二十日教育会館にて	
06. 13	合理的減俸の要求 中澤時彦 誠首の立証教員年齢の若さ 小学校は卅歳、中学校は卅五六歳 帝国教育会で調査／続いて 初任給調査 帝国教育会で	
06. 20	教育受難の時地位の安定へ 全国聯合教育会総会で百五十名の評定	
09. 12	地方教育費整理で聯合教育会起つ 十七、八日臨時総会開催	
09. 19	減俸案に対して教員大衆のデモ 但し英国倫敦でのこと	
10. 03	議題沢山で関東聯合教員会 中旬甲府市で開催	
10. 10	全国小学教員仙台市で大会 主に教員の待遇問題で	
10. 24	教員給全額支弁を百万人の署名で政府に請願する運動 全国聯合小学校教員会 俸給令改正は教育会に悪影響 関東聯合教育会で満場一致決定	
10. 31	教育を破綻に導くとて信濃教育会が教育整理案に大反対	イギリスの例 待遇改善要求
1931. 12. 05	帝国教育会へトラックで運ぶ請願書四百万 教育費負担金千五百万円増額を目掛けて	

(2) その他

1929. 12. 07	東京に生れた教員の消費組合 有馬氏等の肝煎で	
1930. 01. 18	教員互助会 秋田県で組織	春季特別号、 以下2件同じ
03. 29	教員組合結成の機運 志垣 寛 教育時事批判講演会 教育記者新人会	
04. 19	吾々を守るものは教員組合の結成 成城学園小学訓導 小林 樹	
04. 26	不当なる減給、罷免と抗争して勝てる英国の教員組合 X Y Z 教員の為の消費組合 東京に設立され成績良好 全国の教員よ結束して起て！ 教員組合の実現を期す 帝国教育会理事 野口援太郎	
06. 14	教育問題批判講演会 教員組合準備会 教員は労働者か 教員組合結成の前提として 池田種生	
06. 21	女教員の地位擁護を叫ぶ 決議事項の実現につき論争 火花を散らした女教員会	
07. 05	極度に緊張した教員組合準備会	
08. 16	教育の再吟味に新興教育研究所 新進気鋭の人々によって新に設立、旧教育の牙城に迫る	
1930. 10. 04	女教員の制服統一反対 福岡県女教員会	
1931. 01. 03	新年特別記事（其一）昭和六年に残された問題 イデオロギーの清算へ 真の意味の教員 組合 田制佐重	教職を辞任
01. 10	新生する教育科学研究会 新旧教育の批判的研究 十七日に総会	
02. 21	教員消費組合一周年の成績？ 組合員の自覚はまだ 但しやっては行ける	
04. 18	帝国教育会に府が重税を課す 課税の可否を会で研究中 小学女教員大会 五月十六、七、八の三日間 教育会館で	
06. 20	新潟県教育会で教員組合を作る 教員の向上、団結の目的	
07. 18	中等学校女教員の大会合 校長会、桜蔭、佐保会提携で八月初め東京に 全国を行脚して女教員会の充実に努力する石川ふさ子女史	
08. 08	中等学校女教員大会 女に、女を、女も その差別不満に一貫して気炎万丈裡に終る	
08. 15	中等学校に於ける女教員の担当分野 女教員大会の議題に就て 東京府立第一高女校長 市川源三	
10. 10	女教員の地位と昇進の道を開け 福岡県女教員大会	
10. 31	満蒙問題に教員会起つ 「排日読本」訂正を国際連盟に提議	

日 付	記 事 見 出 し 名	備 考
1931. 11. 14 11. 21	日華教育提携教員会から提唱 代表者、民国公使を訪問 南満教育会代表者が満蒙の実情陳述 帝国、帝都教育会に迎へられ排日政策の巨細を	

(3) 「教育界の沈滞打破」「教育刷新」等関係記事(本稿でいう教員処分に言及した記事に限定)

日 付	記 事 見 出 し 名	記 事 内 容
1929. 03. 16 (S04)	教育界の沈滞と救済 自由ヶ丘学園長手塚岸衛 <第二百号記念記事 教育界の沈滞打破(の2)>	教育界の沈滞が叫ばれているが、その打破の責任は各々の当事者個人にあり、これに努力しない者は制裁を加えたり、職を奪うことである。
	日本の将来の教育を語る <二百号記念、本社座談会>	教育界の沈滞打破のため小学校教員の自覚を促す方法として、(1) 俸給を値下げさせて反省させる、(2) 有力者からの圧迫の除去、(3) 周囲の圧迫を排除する信念の保持、(4) (3)を実現する師範教育の充実、(5) 教育行政から教師の自覚を促すなどの意見がでた。
1929. 05. 25 (S04)	沈滞を支持するもの 上田庄三郎	前号からの継続。議会の教育論はますます教育の政治化の傾向を強めているが、それに対する教育評論家の見解が御用的なものになっている点にも沈滞の原因がある。思想善導によって教員の更迭は露骨に政治化し、教員になるまでに教育者は精根を使い果たしているのが現状である。俸給も恩給も「軽率不謹慎」なる人間の去勢料でないと誰が断言できるのか。
1929. 08. 03 (S04)	スッポンの自衛形態 中 重信	教員は待遇改善や俸給値上げの要求が通っても、それに満足して働くとはしない。教育の改造と何をいっても駄目である。
1929. 09. 21 (S04)	教育界の不安、沈滞について 慶応大学教授 小林澄兄	町村の教育費が膨張したのは学校建築等への出費のため。教員俸給は削減すべきでない。教育界の意気をあげるためには有力な教員組合ができて、教員の向上と進歩を図ることが必要。
1929. 10. 12 (S04)	教育不安、寧ろ歓迎 奉天高等女学校長 安藤基平	今日教員ほど他の職業と比して平和な境遇を守りうる職業はない。その教育界を生氣あるものにするには、むしろ俸給引下げや人員淘汰も必ずしも悪いことではない。
1929. 10. 26 (S04)	教育界の不安沈滞について自ら警む 東京高師教授 馬上孝太郎	教育界の不安沈滞の原因の一つに人事行政の紊乱があり、政党の影響が教員の進退にまで及ぶこと、情実人事の横行が問題。
1930. 02. 22 (S05)	教育者の反省 山口秀太郎	教育作用の内実よりも給料日が近づくことを最上の喜びとするような浅薄な考えの教員が多く、かえって正しい道を歩もうとする教員が迫害を受けている。教育には折りの境地が必要。
1930. 04. 26 (S05)	教育者と経済思想の欠乏 高京高師教授 中島信虎(春季特別号)	教員にはけちけちして小銭を貯めようとする者はいるが、本当の経済思想を持っている者は少ない。これは自分の専門以外に属することに無関心で、広く読書しないことに起因しているのではないか。※「高京」は「東京」の誤りだと考えられる。
1931. 02. 21 (S06)	「教育の合理化」研究座談会 七日夜教育会館に於て	為藤五郎、池田種生、赤井米吉、牧口常三郎、野口援太郎など9名が参加。ここでは、教員の待遇を減ずることなく合理化する必要性という観点から、教員に無理解な行政官の問題が議論され、教員組合の自治による教員の罷免や校長公選制などが提唱される。

日 付	記 事 見 出 し 名	記 事 内 容
1931. 06. 06 (S06)	時事問答 荒み行く教育者 早稲田大学 教授 原田 實	もし教師の手が余るなら一年位遊ばせて教師としての修業をさせるとよい、教師の頭数さえ揃えればその資質や力量がどうなろうとかまわないという当局の考えには納得いかない、真に国力を培養するには軍人よりも教育に力を注ぐべき、教員の思想が悪化するとか自暴自棄になるのはよくない、など。
	減俸問題の教訓 経済と教育の関係を明かにした 教員も亦資本家に仕へる労働者 田制佐重	一般官吏も教員も金融資本家に仕える手先、資本主義に仕える一般の労働者であると自覚すべき。今後は教育が社会と没交渉では許されないということが減俸問題の投じた一石である等。
1931. 06. 13 (S06)	時事問答 腰の弱い文部省 成女高等女 学校長 宮田 脩	教員待遇の問題に対し文部省は内務省に常に負けているが、これは文相や官僚に有能な人物が向けられていないからではないか。教育者は、文部省の態度如何に関わらず強い意志をもって職務にあたるようになってほしい、など。
1931. 06. 20 (S06)	時事問答 呪詛される教育 東京女高師 附属高女主事 北澤種一	一般社会は教育に無理解で、減俸減首等によって教員をいじめることが思想的に大きな影響を与えていることを非常に問題ではないか、など。
1931. 08. 01 (S06)	教育刷新の根源は是れ 無意義なる教職 員の差別待遇を撤廃すること 東京青山 師範学校長 長谷川乙彦	現在の官公立学校教員の待遇には複雑で窮屈な官等、俸給の階級制が存在。封建時代の官尊民卑の遺物というべきもので無意義なものであり、適材適所の原則にたってこれを簡素化、均等化すべきであるなど
1931. 08. 08 (S06)	専横な軍閥！無気力な教員！ その傾向 益々濃厚 一記者	財政窮乏による教育不安に対し、教員は声もあげ得ないほど打ちのめされているが、軍閥はその一方で国防上刷新改善の要求をだし、財源を政府に捻出させようとしている、など。

3. 教員の思想対策関係

1931. 05. 09 (S06)	教育家墮落 貴族院の公正会決議	教員神官僧侶等の墮落が宗教上教育上の權威喪失の原因との理由から、貴族院公正会では「思想善導上風教上にその範を示す」ことを教員等に求める決議を行った。
	猿が猿を笑ふ話 公正会の教育者墮落の決議を見て 為藤五郎	今日「墮落」を指摘されるのはむしろ政治社会の側で、政治家こそ第一のやり玉にあげられる存在である。
1931. 09. 19 (S06)	教員左傾にきつい取締 警視庁以上 (東京府市版)	東京府下での先の教員赤化事件に関し、府当局は校長等を集めた講習会を開催。以前の教育文芸家協会その他の合法団体に加盟していた者の名簿を配布する、視学からも「友人にそうした者がいてはならない」という指導をするなど、警視庁以上に厳しい取締りを行っている。
	教員赤化対策協議会 文部省で	文部省では六大都市とその所在府県、沖縄・北海道・埼玉・岩手・新潟・秋田・千葉の各県教育課長・視学官を召集し、教員赤化状態の事情調査と防止方策等に関する会議を行う。
1931. 09. 26 (S06)	教員赤化問題対策 先ず位置の自覚 無理解な弾圧は不可 日本青年館松原主事談	前号の対策協議会の報告。30歳以下の者に多い、全協系の活動家に誘導されているなどの実態が報告された。一方、松原は農村等の窮状からマルクスに接近した若い赤化教員の心情には理解すべき点もあるとし、その善導や防止のためには教員の社会的地位の自覚や、世界の進歩的思想を日本民族の思想に同化させる必要があることなどを主張した。

日 付	記 事 見 出 し 名	記 事 内 容
1931. 10. 03 (S06)	「教員赤化」の考察 金子芳村	小学校教員の赤化思想は単に共產主義思想的な運動だけと看することはできず、「教育界改革思想」というべき思想運動はある程度危険過激な意味を有する。その背景には教員生活の経済的圧迫、官僚式圧迫制度、教育者自身の修養不足などがある等。

4. 教員の善行美談・殉職関係

1929. 01. 12 (S04)	美はしき教師・・・ 児童 貧しき中に	新潟県松之山村の小学校女教員Nが、父が病気のため家計の貧しい一受持児童に弁当や衣類を与え、奨学に努めていた。
1929. 04. 13 (S04)	子供を助けて老訓導が大火傷 繃帯のまま事情を秘して授業 美談！広島県山間の小学校で	広島県沼隈郡山南村小学校の分教場に勤務する教員Kが、焚火の火が服に引火した児童を助けようとして大火傷を負った。郡教育会ではK教員を表彰。
1929. 04. 27 (S04)	教育美談 自分の血液で教へ子を救う 二合五勺の尊き血に負傷女学生助かる	福岡県香椎高女の女学生が列車とホームの間に落ち、出血多量の重傷に陥ったが、同校の音楽教員Mの献血で助かる。
1929. 05. 11 (S04)	訓導生活四十九年 日本一の勤続老訓導 宮城県の高橋氏隠退	宮城県加美郡宮崎小学校の高橋某訓導。村内有志二百名以上による送別会開催。文部大臣表彰など数多くの表彰を受けた。
1929. 09. 21 (S04)	小学教師勤続四十年 湯澤一橋小学校長 勇退す	明治17(1884)年以来40年以上勤続の小学校長が退職。師範学校卒業の年から校長として勤務してきたとのこと。
1930. 08. 02 (S05)	児童を助け訓導死亡す (東京府市版)	千葉県の海岸で臨海学校を開いていた東京の誠之小学校訓導 I が、受持児童が溺れていたのを救助後心臓マヒで死亡。
1930. 10. 04 (S05)	殉職訓導校葬 廿八日誠之小学で (東京府市版)	I 訓導の校葬が行われ、文相・文部次官・東京府知事・東京市長等も来賓として参列。
1931. 03. 21 (S06)	殉死訓導の建碑除幕式 本郷誠之小学校で (東京府市版)	殉職した I 訓導のために碑が建てられ、その除幕式が同校で行われた。